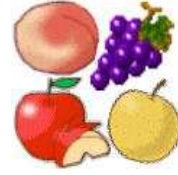




# 平成23年度 果樹情報 第13号

(平成23年10月7日)

福島県農林水産部農業振興課



## 1 気象概況 (9月4～6半旬：果樹研究所)

平均気温は4半旬が23.4℃で平年より2.7℃高く、5半旬が16.2℃で平年より2.8℃低く、6半旬が16.8℃で平年より1.3℃低く経過しました。この期間の降水量は290.5mmで平年の369%でした。

## 2 土壌の乾燥状態 (果樹研究所)

10月3日現在の土壌水分(草生栽培リンゴほ場：無かん水)は、深さ20cmがpF2.4、深さ40cmがpF1.9、深さ60cmがpF1.9でそれぞれ適湿となっています。

## 3 生育概況 (9月30日現在：果樹研究所)

表 主要品種の果実肥大  
(暦日比較 果樹研究所9月30日調査)

果実肥大	リンゴ	
	縦径	横径
実測値(mm)	78.7	88.8
平年比(%)	99	103

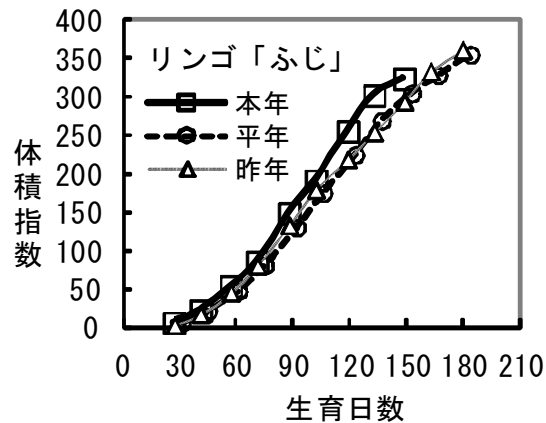


図 主要品種の果実肥大  
(果実の生育日数比較 果樹研究所9月30日調査)

### (1) ナシ

「豊水」の収穫始めは9月15日で平年並み、収穫盛りは9月20日で平年より1日早まりました。果実品質は、一果重が415g(平年426g)、糖度(Brix)が12.1%(平年12.7%)でした。

9月30日現在の「ラ・フランス」の果実の成熟状況(満開後155日)は、果肉硬度は平年よりやや高く、デンプンの消失はほぼ平年並みに推移しており、成熟は概ね平年並みに推移していると判断されます。

### (2) リンゴ

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が平年比99%、横径が平年比103%でほぼ平年並みの状況です。また、果実の生育日数による比較でも、ほぼ平年並みの状況です。

9月30日現在の「ふじ」の果実の成熟状況(満開後147日)は、果肉硬度は平年より高く、デンプンの消失は平年より早く推移しており、糖度および酸度はほぼ平年並みの状況でした。また、アントシアニン含量は平年より低く着色は遅れて推移しています。

## 4 栽培管理上の留意点

### (1) ナシ

#### ア 「ラ・フランス」の収穫

デンプンの消失程度から収穫適期を判断すると満開160日後頃と考えられます。収穫が遅れ

ると果肉褐変や粉質化など品質（食味）低下の原因となるので注意しましょう。

(2) リンゴ

ア 中生品種の収穫

地色や着色、食味などから総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 「ふじ」の着色管理

「ふじ」の摘葉は10月上～中旬頃から実施しましょう。また、10月上～中旬頃を目安に反射シートを敷設しましょう。

(3) ブドウ

ア 基肥

落葉前の10～11月にかけて実施しましょう。「巨峰」ではチッ素が2kg/10a、リンが8kg/10a、カリが8kg/10aを目安に施用します。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ腐らん病

本病菌はつる折れやつる抜けして樹上に残った果柄から侵入しやすいので、果柄が残らないように丁寧に収穫を行いましょ。本病の発生が認められる場合は、各品種の収穫直後に薬剤による防除を実施しましょ。

イ モモせん孔細菌病

2回目の秋期防除を実施していない園では、越冬伝染源密度の低下を図るために、落葉前の10月上～中旬までに必ず実施しましょ。

ウ ナシ黒星病

越冬伝染源密度を低下させるため、「豊水」の収穫後から10月下旬までに2回目の秋期防除を実施しましょ。

**病虫害の発生予察情報・防除情報**

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。